

部活動などの活躍

《陸上競技部》

地域別陸上競技大会

共通男子走高跳 第6位入賞

〇〇〇〇くん(3-2)



《フラワーアレンジメント部》

天王祭に作品を奉納！



胡蝶蘭やアンスリウムなど珍しい植物から



シャクヤクやなでしこなどの日本古来の植物のアレンジまで色鮮やかな花々が祭を彩りました。



部員17名の
アレンジメント作品が
素盞雄神社の境内
で展示されました。



境内に設けられたひな壇に飾られた花々

【お詫びと訂正】5月号の前期生徒総会の案内に誤りがありましたので、お詫び申し上げますとともに、次の通り訂正いたします。2学年の学年委員長→(正)3組 〇〇〇〇くん

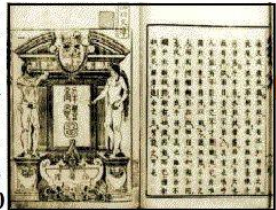
南千住マイスターのコーナー

「解体新書」は世に出ると大きな反響を呼び、玄白は時の人となり、將軍の拜謁を許されるまでになりました。開業医として経済的にも豊かな後半生をおくりました。一方良沢は書齋にこもり、さまざまな蘭学書の翻訳をしますが、刊行すらしませんでした。玄白が「蘭学事始」で良沢を紹介してはじめて世はそのことを知ります。しかしそれは良沢が80年の生涯をとじた後のことでした。

前回のコーナーでは回向院で行われた贈分けに関連した解体新書の「杉田玄白」を紹介しました。この解体新書発行のもう一人の功労者は「前野良沢」です。今回はこの前野良沢を紹介いたします。解体新書といえは、まず杉田玄白ですが、なぜ前野良沢はその次なのでしょう。

前野良沢は豊前国中津藩(現・大分県中津市)の藩医で蘭学者です。享保8(1723)年、筑前藩士の子として生まれますが、幼時に父母と別れ、医官の叔父に引き取られて育てられました。20歳を過ぎた頃、蘭学を志し、明和7(1770)年藩主の参勤交代について中津に下向した際、長崎へと留学しました。留学中に入手したのが西洋の解剖書『ターヘル・アナトミア』でした。蘭学書の正確さに驚いたのは玄白と同じでした。玄白と知り合った良沢は、一緒に翻訳に乗り出します。その作業は困難を極めました。良沢は、この翻訳書をすぐにでも世に発表しようと思いましたが、良沢は、翻訳に不十分などところがあると発行を先に延ばすことを主張します。しかし玄白は医学の発展のためにも発行を決めます。根からの学者肌だった良沢は、翻訳者として名を連ねることを辞退したのです。オランダ語の力は玄白よりもはるかに優れ、翻訳作業の立役者は、実は名前がのっていない良沢だったのです。

『解体新書(2) 前野良沢』の巻



小塚原回向院
観藏記念碑



題字:校長 齊藤 進



学校だより
平成29年6月
第75号
荒川区立南千住第二中学校



ナンちゃん・ニーくん

素盞雄神社天王祭

校長 齊藤 進

6月3日、4日の両日に天王祭が行われました。本校生徒をはじめ保護者の皆様もお神輿を担いだりしてお祭りに参加されたと思います。さて、神酒所廻りなどお祭り独特の華やいだ雰囲気を味わううちにお祭りそのものにとっても興味をもつようになりました。天王祭はいつ頃から始まったのか。お神輿にはどのような意味があるのか。お神輿を担ぐ掛け声はどのようなものか。各町会の方々が着用している半纏の模様、色合いにはどのような歴史があるのかなど興味は尽きません。



天王祭はその昔、夏に流行する疫病を祓(はら)うことから始まったそうです。みこしも神輿(御輿)というように神霊の乗り物として担ぐもので英語ではportable shrine(持ち運び可能な神社)と説明されています。天王祭独特の神輿振りには神の霊を揺り動かして活性化させるという意味があるそうです。

神輿の掛け声はどうでしょう。全国各地では「わっしょい」「オイサ」「セイヤ」「ソイヤ」「どっこい」「ちよいちよい」「よいさーはいさー」などさまざまな掛け声があるようです。よく耳にする「わっしょい」には「和(輪)を背負う」など諸説があるようです。天王祭では町会によっては統一した掛け声があるのかも知れませんが、実際に神輿を担いだ方々にお聞きしましたがとくに決まった掛け声はないそうです。

素盞雄神社は平安時代初期の795年(延暦14年)に創建されたと言われています。人々の暮らしの礎となっている天王祭ですが、とても古い歴史と伝統があることが分かります。生徒の皆さんは現在行っている地域学習で天王祭について調べるとさらに南千住の地域が身近に感じられ地域への思いや理解が深まると思います。

さて皆さんはどのような掛け声で御神輿を担ぐのでしょうか。

南千住っ子の血が騒ぐ神輿担ぎ、



今年も多くの南二中生が参加しました。

2年生 下田移動教室

1日目

5月15日(月)から17日(水)までの2泊3日、2年生は下田移動教室に出かけました。朝早い時間の出発に心配もありましたが、全員が元気に集合しました。出発式では、**実行委員長の〇〇〇〇くん**が、「**下田移動教室のスローガンは“感謝と笑顔”です。お互いを思いやる心を大切に、感謝の気持ちを行動で表しましょう**」とあいさつしました。みんなの笑顔があふれる移動教室にしようという意味がこめられた素晴らしいスローガンと〇〇くんの堂々とした態度に、見送りに出ている他学年の先生からも大きな拍手が送られました。バスは予定通り、伊豆半島の高台にある下田臨海学園に向かって出発しました。

入園式で学園の方々に全員でご挨拶をして、各部屋で荷物の整理をしたあと、家から持参したお弁当をいただいてから、**寝姿山のハイキング**に出発しました。寝姿山はその名の通り稜線が女性の寝姿に見えることから名付けられた山で、山頂は自然公園として整備されており、登山道では小さなお地蔵様に出会えたり、寝姿ブルーという自生するアジサイや希少な笹百合などが見られます。途中急な山道もあり、弱音を吐く人もいましたが、皆で励まし合って山頂を目指しました。頂上では美味しいソフトクリームと**下田港、伊豆七島、天城連山を一望する絶景**が待っていました。みんな疲れも忘れて、写真を撮って、景色を眺めて、楽しみました。

学園に帰って、入浴と夕食を済ませると、お楽しみのレク大会がスタート。お絵かきリレーで校長先生の似顔絵を描きました。文字は禁止のルールにもかかわらず、校長先生が選んだ最優秀作品は、イケメンと大きく書かれた作品でした。就寝前には、自主的にトイレのスリッパをきれいに揃えたり、部屋の整理整頓をする姿も見られ、すこしたくましく成長した1日でした。

下田の街を散策



武者姿はだれ?



下田海中水族館を満喫



小田原城見学



荒川区総合水防訓練

5月27日(土)、汐入公園で**荒川区総合水防訓練**が行われました。この水防訓練は、台風や集中豪雨などの災害に備えて、区内の消防署や消防団、町会、区役所が協力して、防災のための訓練をするものです。この訓練に、**区内の中学生の代表として、南千住第二中の27名が参加**しました。

訓練の内容は、大雨が予想される際の排水溝の清掃、浸水家屋からのバケツリレーによる排水、土のうを使ってのマンホールからの水の噴出防止、水没車両からの人命救助、D級ポンプを用いての冠水道路からの排水作業などでした。これらの作業のうち、実際に**レスキュー部員たちは、「土のう作り」「バケツリレー」「排水溝の清掃」「D級ポンプによる排水」**などに参加しました。1年生には初めての本格的な防災訓練でしたが、2、3年生の手本やサポートもあって、たいへん立派に役割を果たしました。2、3年生もこれまでの訓練の成果を発揮し、素晴らしい活躍をしました。終了後に行われた**荒川区長さんや荒川消防署長さんによる講評**でも南千住第二中レスキュー部の**チームワークの良さや防災への意識の高さ**などが紹介され会場からも大きな拍手をいただきました。部員にとっても大変貴重な経験となる1日でした。

総合水防訓練参加者
3年生

2年生

1年生



力を合わせてバケツリレー



D級ポンプを使った排水訓練



南千住駅浸水を想定した土のう積み訓練



訓練に参加したレスキュー部の皆さん

1年生 地域学習

5月12日(金)6校時に、校長先生から南千住地域の歴史や文化などについてお話をいただき、1年生の地域学習がはじまりました。歴史に基づくエピソードの数々に1年生は興味津々で、自分が生まれ育った街についての学習に期待が高まりました。つづいて、南千住二中の玄関前にある火力発電所の史跡を示す看板や1階ホールにある火力発電所やスカイツリーの模型、そして片目の大緋鯉、千住大橋の大亀、牧の野の大蛇の御輿などを回り、南千住のまちの歴史や隅田川にまつわる妖怪伝説について説明を受けました。



5月19日(金)には、宮尻先生による「南千住ってどんなところ？」の授業が行われました。電子黒板に登場する昔の写真や人物にまつわる説明を聞いて、クイズを考えて答える楽しい授業に皆とても意欲的に取り組み、南千住の街を改めて見直し、様々なことを学び、知識を深めました。その後、南千住の白地図の上に史跡や文化財を示すシールを貼る「地図で探そう」を実施。班ごとに考えたり話し合ったりして38ヵ所の史跡・文化財の場所を探しました。タブレットで調べながら、皆で力を合わせて取り組みました。地図が完成すると、南千住地域は古くから江戸の玄関口として栄え、その様子を後生に伝える多くの史跡に恵まれていることがわかります。

7月7日(金)には、「あらかわ伝統技術展」や「あらかわふるさと文化館」の見学や、南千住の史跡や名所、寺社などを班ごとにコースを決めて見て回る校外学習が予定されており、「南千住の歴史を語る南二中生」を目指して地域学習を頑張っています。



左上: 玄関前に設置された案内板の説明を読む様子。かつてこの地に、火力発電所があったことがわかります。

右下: 1階ホールにある三体の妖怪御輿にまつわる伝説を聞き入る1年生たち。



学園前で全員揃って記念撮影!

2日目

2日目は、クラスごとに下田の市街地を通過して、**下田海中水族館**へ向かいました。自然の入り江に浮かんだ船を模した水族館には水量600㎡の大水槽があり、伊豆の海の再現をテーマに魚類や無脊椎動物、海藻など50種10,000点もの生物が暮らしています。イルカやアシカのショーを見学したり、アザラシのからだに触れる体験ができた人もいました。中でも幸運だったのは、**〇〇〇〇くん**です。イルカのトレーナーに選ばれ、イルカとコミュニケーションをとりながら、ジャンプや回転技などを見事に成功させ、会場から大きな拍手をいただきました。

午後からは、班ごとに決めたコースに沿って**下田市街を散策**しました。宝福寺や了仙寺を拝観したり、開国博物館を見学したり、さらには、ペリー像や大砲など市街の至る所に設置された開国にまつわる記念碑を巡ったり、思い思いに下田の街を楽しみ、全班が予定通りに、吉田松陰が黒船に乗り込もうとした弁天島のチェックポイントに到着しました。

夜は学園で「きもだめし」のレク大会を行いました。数人ごとのグループに分かれ、全館を暗くして、食堂からホール、渡り廊下、誰もいない1階の部屋を通過して、学園の端にある204号室へ向かいました。明かりのない学園は何か潜んでいそうなムードたっぷり。レク係苦心の作の怪奇現象の数々に、悲鳴や助けを求める叫び声が館内に響き渡り、大盛り上がりレク大会となりました。

3日目

最終日はまず伊東マリンパークに立ち寄り、お土産を購入。そして**小田原城址公園**へ向かいました。目の前に佇む小田原城にみんな大興奮で、天守閣に上ったり、小田原城の甲冑や刀剣、絵図、歴史資料などが展示された歴史資料館などを班ごとに見学しました。

帰路はバスも順調に進み、16時すぎに学校に到着。**実行委員の〇〇〇〇さん**の司会で解散式が行われました。学年の先生方の話につき、**実行委員の〇〇〇〇さんが、「この3日間の経験を活かして、感謝と笑顔あふれる学校生活を送りましょう」とあいさつ**をしました。3日間を通して、過ごしやすい気候にも恵まれ、楽しく素晴らしい思い出がたくさんできました。これからの2年生の成長が大いに期待されます。

3年生 修学旅行



新幹線内はゲームとおしゃべりで大盛り上がり！



鹿せんべいをもらうとおじぎするマナーのいい鹿



笑って学べる楽しい説法でした



豪華な夕食に思わずピース！



北野天満宮で合格祈願



見つけた人はラッキーという四つ葉がついたタクシー



金閣寺の美しい佇まいに皆うっとり



大人気の車折神社で芸能人の絵馬探し！



5月24日(水)から26日(金)までの3日間、3年生は2泊3日の修学旅行に行ってきました。3年生にとっては中学校生活最大にして最後の宿泊行事です。およそ1ヶ月をかけて準備を重ね、この日を心待ちにしていました。朝は集合時間5分前には全員が揃い、グループごとに南千住駅でチェックを受け、東京駅の集合場所に向かいました。出発式は**実行委員の〇〇〇〇くんの**司会で行われました。今年の修学旅行は班ごとの自由行動が多いことが特徴。これまでの宿泊行事で学んだことを活かし、まわりのことを考えて自分たちだけでコースを回ります。副委員長の**〇〇〇〇くんの「中学校生活3年間の集大成として、修学旅行では小さな大人としての責任ある行動をとりましょう！」**の出発の言葉に、3日間でさらに一人ひとりが成長することを心に誓い、気合いと期待を胸に出発しました。

新大阪駅に到着すると、バスで奈良へ向かいました。法隆寺近くで昼食をとり、クラスごとに見学スタート。国宝・重要文化財だけでも55棟を有する法隆寺には広大な境内が広がります。世界最古の木造建築物である金堂、五重塔や夢殿などの建築や飛鳥時代の仏像や美術品などを1時間かけて見学しました。

次に訪れたのが奈良公園です。ここからは班ごとに自由散策。東大寺大仏殿や正倉院、二月堂などを見学したあとは、神の使いとして太古より愛されてきた鹿たちとのふれあいを楽しみました。この日の宿泊は、「奈良パークホテル」。天平時代の女官の衣装を身につけたホテルの皆さんのお出迎えに一同大感激。夕食は古代の文献をもとに再現された「天平の蘇」という発酵食品や古代米などの昔の宮廷料理なども加えられた心づくしの懐石料理で、全員心もお腹も満たされました。

1日目の最後は「漆器の加飾体験」へ。初夏らしい花火や金魚、古都の雰囲気漂う寺社や手まりなど思い思いの図柄に真剣な眼差しで筆で一色ずつ入れて、思い出に残る素敵な作品を完成させました。加飾作品は10月に開催される霜月祭で展示される予定です。

漆器の加飾体験

能楽おもしろ講座

講座」を体験しました。2日目の宿泊先は「ホテル本能寺」。夕食は各部屋で焼き焼きをいただきました。皆で囲む鍋に疲れた顔もおもわずほころび、ごはんのおかわりが続きました。

3日目は班ごとのタクシー行動。金閣寺や伏見稲荷、合格祈願へ北野天満宮などをめぐり、京都観光を終えました。

自分たちの力で作り上げた修学旅行。最高の思い出ができ、また一回り大きく成長した3日間でした。

えた楽しいもので、身を乗り出すほど真剣に聞き入りました。「身のまわりにいる人や物はあって当たり前ではない。つねに感謝の気持ちを忘れずに日々を過ごしましょう」ということが心に響きました。そして、学年写真の撮影ポイントに向かう頃、皆の願いが通じて、なんとピタリと雨が止み、全員揃って写真撮影ができました。

薬師寺からは電車を乗り継いで京都に向かいました。京都では、班ごとに決めたコースを自分たちの力だけで回りました。夕方にはどの班も遅れることなく、京都の集合場所に到着。住宅街の一角にある能楽堂で「能楽おもしろ

昨日は「能楽おもしろ講座」をご利用頂きありがとうございました。私は生憎他校のものがありました。私にきませんでした。能という字にない時間や空間の中で日本の良さを体感し、様々なものに興味関心を振ってほしいと願っています。河村能舞台 河村純子

能楽堂から礼状が届きました！

